

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科衛生士概論 ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部・2部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	柴田 佐智子
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	科学的な根拠をもって歯科衛生活動を展開するために歯科衛生過程を学び、歯科衛生士の業務内容や要点を、法律的性格からも理解し、医療保険にたずさわる他職種の方々の業務・資格も相互理解し社会的役割を自覚する。
9. 成績評価	学期末に行う期末試験を評点とする。ただし、授業内に実施する小テストやホームワークの内容と提出状況、授業態度を加味する場合がある。
10. 受講上の注意	教科書をよく読み、不明な点があればすぐに質問をしてその場で理解するように努めること。
11. 教科書	最新歯科衛生士教本 「歯科衛生学総論」
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	7章 歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生活動の場、現状
2	2章 歯科衛生士の歴史	歯科衛生の誕生と経緯。3台業務内容。歯科衛生士と歯科助手の違い。
3	1章 歯科衛生学とは	歯科衛生と健康。歯科衛生活動の対象：ライフステージに関わる歯科衛生活動。歯科衛生の領域
4	3章 歯科衛生活動のための倫理	予防の概念 歯科衛生の考え方：科学的思考（ICF、EBM、批判的思考、保健行動、健康信念モデル、他）
5		ヒューマンニーズ倫理：マズローの欲求階層理論、歯科衛生に関連した8つのヒューマンニーズ
6	4章 歯科衛生過程	歯科衛生過程活用の利点。流れ：5つのプロセスと書面化
7	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務	歯科衛生士と歯科衛生業務。歯科衛生士の役割。 安全管理：リスクマネジメント、感染予防対策 歯科衛生士と医療倫理：倫理の必要性。医の倫理と患者の権利。歯科衛生と倫理。対象の自己決定権の尊重。インフォームドコンセント。
8	6章 歯科衛生士と医療倫理	
9		前期 期末試験

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科予防処置論Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部・2部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	柴田 佐智子
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	う蝕や歯周病などの口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な知識を身につける。 対象となる組織の健康（正常）像を認識し、歯科衛生士が歯や歯周組織の疾患を予防するために行う、予防的歯石除去法、う蝕予防処置法、う蝕活動性試験などの基礎知識について、総合的に学習する。
9. 成績評価	学期末に行う期末試験を評点とする。ただし、授業内に実施する小テストやホームワークの内容と提出状況、出欠席、授業態度を加味する場合がある。
10. 受講上の注意	授業で習得した内容は必ず復習し、歯科予防処置実習に活かすこと。
11. 教科書	「最新 歯科衛生士教本、歯科予防処置論・歯科診療補助論」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	I 編 総論	歯科予防処置序論
2	1章 歯科予防処置論の概要	口腔組織の名称と歯牙名称 歯科予防処置の位置づけ
3	II 編 歯科予防処置の基礎知識	歯の構造、歯面の名称。対象となる組織の健康（正常）像
4	1章 口腔の基礎知識	歯周組織図 病的変化を招く因子と組織の病的変化
5	II 編	口腔内の付着物・沈着物
6	2章 う蝕と歯周病の基礎知識	う蝕とは、歯周病とは
7		口腔の器質的問題の把握
8	III 編 歯科予防処置各論 2章 口腔内の情報収集	患者からの情報収集口腔内診査 プロービング：得られる情報。操作上の注意 ポケット測定と同時にを行うことのできる歯肉評価法
9		スクレーリング（歯石除去に用いられる器材）
10		1. 手用スクレーラー：手用スクレーラーの構成、特徴、使用目的 シクルタイプスクレーラー、キュレットの基本操作。術者ポジション
11		2. 超音波スクレーラー、エアスクレーラー
12	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯面研磨・歯面清掃（PTC） 1. 歯面研磨（ポリッシング）、2. 歯面清掃
13		術後の洗浄、器具の後始末
14		シャープニング。スクレーリング時の感染予防。
15	総括	前期まとめ
16		前期 期末試験

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科診療補助実習Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等10年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部・2部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	佐久間 真紗美
7. 授業形式	マネキン実習、相互実習を主体とし、実習志説、講義を組み込んで行う。
8. 授業の目標	歯科診療の基本である歯科診療室、器具に関する基礎知識をはじめ、感染予防対策および共同動作の基本と方法・手技などについて必要な知識と技術を習得する。
9. 成績評価	学期末に行う期末試験を評点とする。ただし、実習書やホームワークの内容と提出状況、授業態度を加味する場合がある。
10. 受講上の注意	実習開始前には身支度を整え、静かに待機する。必要器材を忘れないこと。 また、実習は常に緊張感を持って取り組まなければならない。 室内や物品の整理整頓に努め、使用後は各自が責任を持って清掃を行う。 配布資料は順次整理して保管し、適宜活用できるよう工夫すること。
11. 教科書	最新 歯科衛生士教本「歯科診療補助」第2版 最新 歯科衛生士教本「歯科機器」 最新 歯科衛生士教本「歯科材料」
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	・歯科診療室の基礎知識	・歯科診療補助とは ・歯科診療室の環境（空調・照明・受付・診療器材・消毒コーナー） ・歯科用ユニット（各部の名称） ・その他の設備（キャビネット・口腔外バキュームなど）
2	・歯科診療室の基礎知識	・一般診療器具の名称（基本セットなど）
3	・医療安全と感染予防	・手指衛生について・手指消毒 ・手指消毒の分類 ・感染を予防するための基本的な手法 ・グローブの付け方・外し方
4	・基礎実習	・衛生材料実習（綿球作製）衛生材料、知識の整理、実習手順と留意点
5	・基礎実習	・衛生材料実習（綿球検印）
6	・基礎実習	・ブローチ綿栓（拭掃用）実習 ・ブローチ綿栓（包摂用）実習
7	・医療安全と感染予防	・超音波洗浄器の使い方 ・消毒滅菌と消毒・洗浄の定義 ・滅菌法 高圧蒸気滅菌（オートクレーブ）・E O G滅菌 ・消毒法 器械・器具の消毒法 ・洗浄（超音波洗浄器）
8	・基礎実習	・拭掃用綿栓検印 ・ニッシン-マネキン取り扱い説明
9	・共同動作の基本	・患者誘導 ・共同動作の概念
10	・共同動作の基本	・受け渡し実習・確認印 ・器具の取り扱い 受け渡しの禁忌エリア ベングリップとパームグリップによる受け渡し 小器具等の取り扱い（基礎実習）
11	・共同動作相互実習	・ポジショニング・ライティング実習
12	・共同動作相互実習	・患者誘導 ・ポジショニング ・ライティング ・受け渡しの確認
13	・共同動作の基本	・バキュームテクニック実習（模型） バキュームの基本技法 バキュームの目的 バキューム操作の基本 バキューム挿入禁忌部位
14	・共同動作の基本	・バキュームテクニック実習（模型）（歯面研磨）
15	・共同動作相互実習	・バキュームテクニック（相互）各部位のバキュームテクニック
16		前期 期末試験

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科予防処置実習Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等4年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部・2部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	高野 奈美
7. 授業形式	実習室での演習および基礎実習
8. 授業の目標	歯や口腔への形態を覚え手用器具との関係を理解し、基礎実習・マネキン実習を行う。
9. 成績評価	平常点(出席、実習態度)と学期末に行う定期試験により評価とする。 また、検印表の達成度の判定や、実習態度と提出物により、加味、評価をすることもある。
10. 受講上の注意	実習時は身支度をきちんと整え、必要器材を忘れないこと。 配布資料などは整理し保管・管理を行う。事前記入事項は必ず記入
11. 教科書	「歯科衛生士のための齶蝕予防処置法 第2版」 医歯薬出版 「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	2章：手用スケーラーによる基礎知識と基礎運動	器材の配布、スケーラー基礎、基本姿勢、固定、把持法
2		石膏棒を使用した基礎運動
3		マネキン操作MA, HRマーキング、3つの基本運動の検印
4		マネキン顎模型で探針操作（歯牙、硬貨）、シックルタイプスケーラーの操作
5		顎模型上で3つの基礎運動練習
6		顎模型上で3つの基礎運動検印
7	手用スケーラーの基礎運動とマネキンでの部位別操作	部位別操作法 ①33～43番歯
8		前期 期末試験

福島医療専門学校

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科診療補助論Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等13年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部 2部
4. 対象学年・対象学期	1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	今泉 正子
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	歯科診療補助を行うにあたり、その内容と流れを具体的に理解する事が出来る。 主要材料の取り扱いとその特徴を理解する事が出来る。 実習を行う為の基礎知識を習得する事が出来る。
9. 成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
10. 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を持参。（最新 歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」は毎回使用） ・また配布された資料を必要に応じ準備する。 ・講義により修得した内容は必ず復習をし、診療補助実習に生かすこと。 ・授業開始前に、前回の授業の範囲の確認試験を行うので復習をして授業に臨むこと。
11. 教科書	最新 歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」 最新 歯科衛生士教本 「歯科材料」 最新 歯科衛生士教本 「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
12. 副読本	最新「歯科衛生学総論」 「歯科臨床概論」 その他
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	1章 歯科診療補助の概念	・診療の補助とは ・診療の補助の範囲の法的な変化
2	2章 医療安全と感染予防	・医療安全
3	2章 医療安全と感染予防	・感染予防
4	2章 医療安全と感染予防	・感染予防（手洗い）
5	2章 医療安全と感染予防	・感染予防（滅菌、消毒）
6	2章 医療安全と感染予防	・感染予防（医療廃棄物）
7	3章 歯科診療における基礎知識	・歯科診療室の基礎知識
8	3章 歯科診療における基礎知識	・共同動作（受け渡し）
9	3章 歯科診療における基礎知識	・共同動作（ポジショニング）
10	3章 歯科診療における基礎知識	・バキュームテクニック
11	3章 歯科診療における基礎知識	・ラバーダム防湿
12	3章 歯科診療における基礎知識	・ラバーダム防湿（手順）
13	3章 歯科診療における基礎知識	・歯肉圧排
14	3章 歯科診療における基礎知識	・薬品、歯科材料の管理
15	「歯科材料」1章2章	・歯科材料と歯科衛生士 前期総括
16		前期 期末試験

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科診療補助実習Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等13年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部 2部
4. 対象学年・対象学期	2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	今泉 正子
7. 授業形式	講義及び実習室での基礎実習、相互実習
8. 授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療の基本である歯科診療室に関する基礎知識をはじめ、感染予防対策および共同動作の基本と方法などについて必要な知識と技術を習得できる。 ・歯科主要材料の取り扱いを習得する。
9. 成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・検印などを総合的に評価する事もある。
10. 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時は身支度を整え、必要な器材や教科書・資料を忘れない事。 ・室内や物品の整理整頓に努め使用後は各自が責任をもって返却を行し、清掃を行う。 ・配布資料は順次整理をして保管をし、適宜活用できるようにする。
11. 教科書	最新 歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」 最新 歯科衛生士教本 「歯科材料」 最新 歯科衛生士教本 「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
12. 副読本	歯科衛生士教本 「保存修復・歯内療法」「口腔外科」「歯科補綴」「歯周病学」等
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・仮封材（水硬性仮封材/サンダラックバーニッシュ）
2	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・仮封材（テンボラリストopping）
3	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・仮封材（酸化亜鉛ユージノールセメント/仮封用軟質レジン）
4	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・個人トレー作成（精密印象）
5	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・個人トレー作成（精密印象）
6	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・成形歯冠修復材（コンポジットレジン）
7	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・成形歯冠修復材（充填用グラスアイオノマーセメント）
8	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・成形歯冠修復材（コンポジットレジン研磨）
9	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・隔壁法（タッフルマイヤーリテーナー）
10	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・暫間被覆冠作成
11	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・暫間被覆冠作成
12	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・車いす、抑制、介護法
13	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・車いす、抑制、介護法
14	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・口腔内撮影
15	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・口腔内撮影
16		後期 期末試験

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科診療補助論Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等13年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部 2部
4. 対象学年・対象学期	2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	今泉 正子
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	歯科診療補助を行うにあたり、その内容と流れを具体的に理解する事が出来る。 主要材料の取り扱いとその特徴を理解する事が出来る。 実習を行う為の基礎知識を習得する事が出来る。
9. 成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
10. 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を持参。（最新 歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」は毎回使用） ・また配布された資料を必要に応じ準備する。 ・講義により修得した内容は必ず復習をし、診療補助実習に生かすこと。 ・授業開始前に、前回の授業の範囲の確認試験を行うので復習をして授業に臨むこと。
11. 教科書	最新 歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」 最新 歯科衛生士教本 「歯科材料」 最新 歯科衛生士教本 「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
12. 副読本	最新「歯科衛生学総論」 「歯科臨床概論」 その他
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	I 編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-仮封・仮着の補助
2	I 編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-仮封・仮着の補助
3	I 編5章 歯科診療で扱う歯科材料	4-成形歯冠修復の補助
4	I 編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助
5	I 編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助
6	I 編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助
7	II 編2章3章 周術期と訪問診療	周術期における歯科診療補助、歯科訪問診療における対応 前期総括
8		前期 期末試験

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科保健指導論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等17年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	下山田 真弓
7. 授業形式	講義・実習
8. 授業の目標	歯科衛生士の主要業務である歯科保健指導の意義・目的を正しく理解し、歯科保健行動の変容へつなぐ、情報を収集し適切な指導の基礎となる、観察・対象把握力を身につける。
9. 成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
10. 受講上の注意	教科書持参・指示されたものを持参する。
11. 教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版
12. 副読本	最新歯科衛生士教本「保健生態学」 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	IV編対象者別の歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入①妊産婦期
2		ライフステージに対応した歯科衛生介入②新生児期・乳幼児期
3		ライフステージに対応した歯科衛生介入③幼児期
4		ライフステージに対応した歯科衛生介入④学齢期
5		ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤青年期
6		ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥成人期
7		ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦老年期
8	V編地域保健活動における健康教育	地域歯科保健活動
9		前期 期末試験

2021年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	歯科予防処置実習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等4年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	歯科衛生士科 1部 2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	高野 奈美
7. 授業形式	実習室での演習・基礎実習及び基礎実習室での相互実習
8. 授業の目標	歯・口腔の状況の把握及び歯科予防処置の基礎的技術を修得する。
9. 成績評価	学期末に行う定期試験と平常点（出席、実習態度）、実習書の提出状況により評価とする。
10. 受講上の注意	実習時は身支度を整え、必要器材を忘れない。実習書の事前記入事項は忘れずに記入
11. 教科書	「最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導」 医歯薬出版
12. 副読本	「最新 歯科衛生士教本 歯周病学」 医歯薬出版
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	Ⅲ編 歯科予防処置・歯科保健指導各論 3章 歯科衛生士介入の 為の 歯科予防処置・	シックルタイプスクレーラー操作復習（マネキン）相互実習の手順
2		シックルタイプスクレーラー相互実習・歯面研磨①～⑥ 13～23番歯、14～17番歯、33～43番歯、44～47番歯、24～27番歯、24～27番歯、34～37番歯を 部位別操作法で全8コマの中で行う
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習②14～17、44～47番歯（顎模型・人口歯石除去）
10		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習③24～27、34～37番歯（顎模型・人口歯石除去）
11		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習の検印
12		実技試験周知（顎模型）
13		シャープニング
14		前期 期末試験
15		
16		